

# 自然史研究

大阪市立自然史博物館

SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History

大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 – 2011~2015年の調査結果

大阪湾海岸生物研究会\*

Rocky shore macrobiota of southeastern Osaka Bay:  
Results of surveys carried out in the years 2011-2015

Association for the Research of Littoral Organisms in Osaka Bay

**Abstract:** A series of floral and faunal surveys of intertidal zone along the rocky coast of the southeastern part of Osaka Bay, eastern extremity of the Inland Sea of Japan, was carried out at six stations during the years 2011-2015. One hundred and thirty-two species of seaweeds, one species of sea grass, and 479 species of animals were recorded. These results are tabulated and compared with those of preceding surveys at the same locality carried out in the same way.

**抄録:** 2011年から2015年にかけて、大阪湾南東部の6ヶ所の岩礁海岸において潮間帯生物相調査を実施した。その結果132種の海藻、1種の高産顕花植物および479種の動物が記録された。出現種を報告するとともに、同様の方法でこの海域で行った前回の調査結果と比較する。

**Key Words :** Rocky shore macrobiota; intertidal zone; Osaka Bay; the Inland Sea of Japan.

大阪湾海岸生物研究会は、1980年に大阪府南部から和歌山市北部に至る大阪湾南東部の岩礁海岸の潮間帯生物相についての継続的な調査を開始した。1980年には8ヶ所を調査し、海藻105種・動物232種を記録した(大阪湾海岸生物研究会, 1981)。その後、7ヶ所を定点と定め(うち1ヶ所は埋め立てにより消失したため1984年以降は6ヶ所)、多数の観察者による目視調査を続け、5年毎にその結果を公表している(大阪湾海岸生物研究会, 1986, 1993, 1996, 2002, 2007, 2012)。本報では、これらに続く2011年から2015年までの調査結果を報告する。

## 調査地および調査方法

調査定点は図1に示した6ヶ所である。これらはいずれも大阪湾の湾口に位置する岩礁性の露出海岸で、自然の地形が比較的良く保たれている。ただし、明神

崎は1990年以降、沖合に向けて消波を目的とした花崗岩の石積みが造成され、海岸地形が大きく変化した。その後2010年頃にも石積みが追加され、岩礁環境が著しく改変された。2013年の明神崎での定点調査の後、研究会では世話人を中心に明神崎での調査継続、もしくは近傍での代替地の選定を検討したが、どちらの場合も過去のデータとの比較が難しくなるという理由から、明神崎を定点から外し、代替地も選定しないこととした。ウメボシイソギンチャクやイソニナなど、湾内の定点で明神崎が北限だった種もいくつかある。すでに大阪湾内で残された自然海岸が極めて少ない状況にありながら、必要性や配慮に乏しい環境改変がなされたのは残念なことである。

定点のうち、長崎海岸は毎年1回、他の地点は2~3年に1回の割合で調査を実施するように計画した。実際に調査した地点・回数を表1に示す。長崎と城ヶ



Fig.1: Map of the six stations fixed for monitoring of intertidal macrobiota. 図1：定点位置図。

崎は各4回、その他の定点は2～3回、合計17回の調査となった。2010年4月に長崎海岸の後背で土砂崩れがあり、沿岸道路が通行止めとなったため立ち入りができなくなった。その復旧が2011年度にずれ込んだため、長崎海岸では2010年に引き続き2011年も調査ができなかった。

調査は大潮の時期を選び、干潮時に合わせて観察者各自が目視によって潮間帯及び潮上帯に生息する生物をその場で同定・記録し、それらの結果を持ち寄ってリストにまとめるという方法で実施した。一部は標本を持ち帰り同定したものもあるが、現場での同定が難しいもの（ヒドロ虫類、多毛類、小型甲殻類、及び群體性ホヤ類など）は十分に記録されていない。

## 結果

総計で612種の藻類、植物、動物が記録された。藻類は132種（緑藻18、褐藻42、紅藻72）が記録された。被子植物はアマモ1種のみである。これら植物の出現種数を調査地別に比較すると、城ヶ崎98、田倉崎83、戎崎81、豊国崎76、長崎74、明神崎71の順となる（表2）。

藻類の記録には打ち上げられた藻体に基づくものがある。それらは表2で「DR」としている。5年間の調査で記録が打ち上げのみによるものは、クロメ、トゲモク、マメタワラ、フサノリ、キントキ、フシキントキ、フクロツナギ、コザネモ、アマモが該当する。

動物は479種が記録された。動物門による内訳は海綿25、刺胞11、扁形7、紐形5、腕足1、苔虫12、軟体186、星口4、環形32、節足97、毛顎1、半索1、棘皮26、脊索70（原索26、魚類44）である。出現種数を調査地別に比較すると、長崎308、田倉崎288、城ヶ崎282、豊国崎228、戎崎208、明神崎203の順となる（表3）。

## 2006～2010年の出現種との比較

今回の調査全体を通じて生育・生息が確認された種を、2006～2010年の同海域の調査（以下「前回の調査」という）の結果（大阪湾海岸生物研究会、2012）と比較する。

総出現種数は前回の調査が530種、今回は612種で82種増加した。前回の調査と共通する種は476種である。前回の調査で記録されていなかった種は藻類17種、動物136種であり、そのうち藻類3種、動物57種は1980年以來の定点調査で初めて記録された種である（表2、表3）。これら新記録種の増加は、海綿類、苔虫類、小型のウミウシ類で同定精度が向上したり、探索努力が増えたことによる寄与が大きいと考えられる。それら以外では前回の調査で初めて記録された種のうち、次の20種は今回の調査でも記録された：マダラボスマールカイメン、コマイハナゴケ、ツノヒラムシ、アカキセワタ、ベニエガイ、コシロガイ、クジャクガイ、イワガキ、ウロコサシバ、ツルヒゲゴカイ、ニホンコツブムシ、セジロムラサキエビ、アシナガモエビモドキ、ヒメソバガラガニ、マメアカイソガニ、トゲモミジガイ、ヒメヒトデ、トウメクモヒトデ、コバルトツツボヤ、ベニボヤモドキ。これらの中には、分類や同定法が進展したことにより前回の調査以降他種と識別されるようになったものもあるが、見落としが少なく同定しやすいもの（例えば大型の固着性動物としてベニエガイ、コシロガイ、クジャクガイ、イワガキ、コバルトツツボヤなど）は、大阪湾内で定着傾向にあるのかもしれない。前回の調査の報告（大阪湾海岸生物研究会、2012）で指摘された通り、これらの多くは暖海性・外洋性の種である。

一方、前回の調査で記録されていながら、今回記録されなかった種は藻類15種、動物76種の計91種である（表4）。これらはもともと出現頻度の低いものが多くを占めているが、ヒラワツナギソウ、ケイギス、マヒ

Table1: Date, number of investigators, and tide level at low water.

表1: 野外調査の実施日, 調査員数及び干潮時の潮位.

Station	Date	Number of investigators	Tide level at low water (DL cm)
Tagurazaki (田倉崎)	2013/Apr/27	32	-3
	2014/Jun/15	27	-1
Jogasaki (城ヶ崎)	2011/Mar/20	15	11
	2012/Mar/25	18	17
	2013/Mar/31	25	27
	2015/Mar/21	20	12
Ebisuzaki (戎崎)	2011/May/21	15	27
	2015/Jun/6	21	18
Myojinzaki (明神崎)	2011/Apr/17	20	1
	2013/Jun/23	15	2
Toyokunizaki (豊国崎)	2011/Apr/30	22	31
	2012/Jun/23	24	22
	2015/Jun/14	18	27
	2012/May/19	27	26
Nagasaki (長崎)	2013/May/25	23	-12
	2014/May/17	31	0
	2015/May/16	18	25

トデなどは前回の調査以前は比較的定常的に記録されており, 今後の動態が注目される。

なお, 表2～表4の分類群の配列と学名は主として下記に拠った。

全般: 今原幸光(編著)2016. 新装改訂フィールド版写真でわかる磯の生き物図鑑. トンボ出版, 大阪.

海藻: 吉田忠夫・鈴木雅大・吉永一男 2015. 日本産海藻目録(2015年改訂版). 藻類 63:129-189.

軟体動物: 奥谷喬司(編著)2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京.

十脚甲殻類: 三宅貞祥. 1979, 1980. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I), (II). 保育社, 大阪.

魚類: 中坊徹次(編)2000. 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.

その他の無脊椎動物: 西村三郎(編著)1992, 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑[I], [II]. 保育社, 大阪.

## 文献

大阪湾海岸生物研究会 1981. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相とその特徴-1980年の調査結果-. 大阪市立自然史博物館研究報告 (35): 55-72.

大阪湾海岸生物研究会 1986. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1981~1985年の調査結果-. 自然史研究 (大阪市立自然史博物館発行) 2(2): 35-49.

大阪湾海岸生物研究会 1993. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1986~1990年の調査結果-. 自然史研究 2(9): 129-141.

大阪湾海岸生物研究会 1996. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1991~1995年の調査結果-. 自然史研究 2(12): 167-179.

大阪湾海岸生物研究会 2002. 大阪湾南東部の岩礁海

岸生物相-1996~2000年の調査結果-. 自然史研究 3(1): 1-14.

大阪湾海岸生物研究会 2007. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2001~2005年の調査結果-. 自然史研究 3(6): 93-106.

大阪湾海岸生物研究会 2012. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2006~2010年の調査結果-. 自然史研究 3(13): 211-224.

## 調査参加者 (64名, \*は執筆者)

秋山 諭, 安達, 有山啓之\*, 石井久夫, 石崎英男, 石田 惣\*, 石田路子, 稲葉, 今原幸光, 近江智行, 大古場 正, 大谷道夫\*, 大平和弘, 大前清和, 岡野綾香, 小川晃輝, 小倉十生子, 柏尾 翔, 加藤健司, 金井真知子, 神里三恵子, 嘉村周平, 唐沢恒夫, 河原美也子, 河添純子, 木邑聡美, 小島和江, 佐名川洋之, 嶋村吉晃, 高木紀代子, 竹之内孝一, 田中広樹, 辻 美穂, 堤 容子, 豊原治彦, 長江真紀子, 中筋久弥, 鍋島靖信\*, 野々上良甫, 野元彰人, 萩野 哲, 橋口陽子, 波戸岡清峰\*, 畑中義治, 花井 孝, 花岡皆子, 濱口春代, 濱野, 平化 満, 平野健一郎, 福井康雄, 藤井真理, 松井彰子, 前川, 松村 勳, 矢田部典子, 山下隆司, 山下とみ子, 山西良平\*, 吉田晴彦, 吉松ケイ子, 渡邊淳一, 渡部哲也, 和田太一









































Table 4 : Species which recorded during 2006-2010 term but not recorded during the present term.  
 表 4 : 前回の調査 (2006~2010 年) で記録され, 今回の調査では記録されなかった種.

<b>CHLOROPHYCEAE 緑藻綱</b>		<i>Heteromacoma irus</i>	シラトリモドキ
<i>Chaetomorpha</i> sp.	ジュズモ属	<i>Trapezium bicarinatum</i>	フナガタガイ
<i>Bryopsis plumosa</i>	ハネモ	<i>Irus macrophyllus</i>	ハネマツカゼガイ
<b>PHAEOPHYCEAE 褐藻綱</b>		<i>Saxidomus purpuratus</i>	ウチムラサキガイ
<i>Ruglopteryx okamurae</i>	フクリンアミジ	<i>Barnea manilensis</i>	ニオガイ
<i>Undaria undarioides</i>	ヒロメ	<i>Penitella kamakurensis</i>	カモメガイ
<i>Sargassum fulvellum</i>	ホンダワラ	<i>Hapalochleana fasciata</i>	ヒョウモンダコ
<b>RHODOPHYCEAE 紅藻綱</b>		<b>SIPUNCULA 星口動物門</b>	
<i>Grateloupia cornea</i>	ツムカデ	<i>Sipunculus nudus</i>	スジホシムシ
<i>Prionitis</i> sp.	キントキ属	<b>ANNELIDA 環形動物門</b>	
<i>Champia bifida</i>	ヒラワツナギソウ	<i>Glycera onomichiensis</i>	オノミチチロリ
<i>Anotrichium okamurae</i>	キスゲグサ	<i>Lepidonotus elongatus</i>	ヤチウロコムシ
<i>Antithamnion nipponicum</i>	フツツガサネ	<i>Pareurythoe japonica</i>	ニホンウミケムシ
<i>Ceramium tenerimum</i>	ケイギス	<i>Eumice aphroditois</i>	オニイソメ
<i>Herpochondria elegans</i>	サエダ	<i>Terebella ehrenbergi</i>	ハナサキアサゴカイ
<i>Heterosiphonia pulchra</i>	シマダジア	<i>Branchiomma cingulata</i>	ムラクモケヤリ
<i>Laurencia venusta</i>	ヒメソゾ	<b>ARTHROPODA 節足動物門</b>	
<i>Polysiphonia fragilis</i>	クロイトグサ	<i>Amphithoe lacertosa</i>	ニッポンモバヨコエビ
<b>CNIDARIA 刺胞動物門</b>		<i>Pleustes panopla</i>	テングヨコエビ
<i>Coryne pusilla</i>	タマウミヒドラ	<i>Melita nagatai</i>	ナガタメリタヨコエビ
<i>Dynamena crisioides</i>	チガイウミスギ	<i>Melita ?</i>	フトメリタヨコエビ
<b>NEMERTEA 紐形動物門</b>		<i>Dynoides brevispina</i>	ブチウミセミ
<i>Baseodiscus curtus</i>	タテジマヒモムシ	<i>Holotelson tuberculatus</i>	チビウミセミ
<i>Emplectonematidae</i> gen. sp.	エンプレクトネマ科	<i>Littorophiloscia nipponensis</i>	ニッポンヒイロワラジムシ
<i>Tetrastemma</i> sp.	テトラステマ属	<i>Heptacarpus geniculatus</i>	コシマガリモエビ
<b>BRYOZOA 苔虫動物門</b>		<i>Lysmata (Hippolysmata) vittata</i>	アカシマモエビ
<i>Smittipora abyssicola</i>	ツメバコケムシ	<i>Cranгонidae</i> gen. sp.	エビジャコ科
<b>MOLLUSCA 軟体動物門</b>		<i>Pagurus japonicus</i>	ヤマトホンヤドカリ
<i>Lottia langfordi</i>	キクコザラ	<i>Cryptodromia tumida</i>	イソカイカムリ
<i>Haliotis crebrisculpta</i>	チリメンアナゴ	<i>Tiarinia spinigera</i>	トゲイソクズガニ
<i>Alcyna ocellata</i>	キバベニバイ	<i>Chiromantes haematocheir</i>	アカテガニ
<i>Tricolia variabilis</i>	ベニバイ	<b>CHAETOGNATHA 毛顎動物門</b>	
<i>Alaba picta</i>	シマハマツボ	<i>Spadella cephaloptera</i>	イソヤムシ
<i>Schwartziaella zeltnerioides</i>	ハスメチョウジガイ	<b>ECHINODERMATA 棘皮動物門</b>	
<i>Crepidula gravispinosus</i>	アワブネガイ	<i>Decametra tigrina</i>	トラフウミシダ
<i>Petalocochus renisectus</i>	ムカデガイ	<i>Asterias amurensis</i>	マヒトデ
<i>Coriocella setoensis</i>	セトベッコウタマガイ	<i>Ophioneis dubia</i>	アミメクモヒトデ
<i>Cingulina cingulata</i>	ヨコイトカケギリ	<i>Mespilia globulus</i>	コシダカウニ
<i>Elysia abei</i>	アベミドリガイ	<i>Holothuria decorata</i>	フジナマコ
<i>Dolabella auricularia</i>	タツナミガイ	<b>CHORDATA 脊索動物門</b>	
<i>Noumea nivalis</i>	シラユキウミウシ	<i>Aplidium yamazii</i>	シモフリボヤ
<i>Rostanga orientalis</i>	イソウミウシ	<i>Aplidium multiplicatum</i>	ミナシモフリボヤ
<i>Rostanga</i> sp.	イソウミウシ属	<i>Leptoclinides madara</i>	マダラボヤ
<i>Notobryon wardi</i>	ユメウミウシ	<i>Perophora japonica</i>	マメボヤ
<i>Phylloidesmium serratum</i>	サガミミノウミウシ	<i>Ascidia ahodori</i>	ナツメボヤ
<i>Barbatia stearnsii</i>	ハナエガイ	<i>Ascidia zara</i>	ザラボヤ
<i>Xenostrobus atratus</i>	クログチガイ	<i>Ascidia sydneyensis</i>	スジキレボヤ
<i>Musculus pusio</i>	チビクマエガイ	<i>Pyura mirabilis</i>	マクラボヤ
<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ	<i>Intimicus japonicus</i>	オニオコゼ
<i>Isognomon perna</i>	カイシアオリ	<i>Girella leonina</i>	クロメジナ
<i>Spondylus barbatus</i>	ウミギク	<i>Ditrema temnicki</i>	ウミタナゴ
<i>Monia umbonata</i>	シマナミマガシワモドキ	<i>Psenopsis anomala</i>	イボダイ



